

学校と地域の新しい教育活動「柞(ははそ)の森 音楽祭<2008～>」 —手広・西鎌倉での鎌倉市立手広中学校からの取り組み—

橋本典尚

1. はじめに

1. 1. はじめに

情報化社会の現在、生育環境の基礎にある学校周辺の地域は消えつつある。希薄化した地域のつながりは、教育を支える基盤を低下させている。中央教育審議会(2015)提言を受け国は、学校の教育活動における人々と地域づくりの必要性を示してきた。それより早く、行われてきた教育活動に「柞の森音楽祭」があげられる。学校からの地域づくり教育活動「柞の森音楽祭」を知ったきっかけは、「ネサヨ運動」調査で協力を頂いた方々への報告にあわせて、齊藤美代子(校長)の転任先である手広中学校に伺ったことに始まる。2011年4月、定年で退任された齊藤美代子(前校長)と新任された豊永良一(校長)に伺った折、地域合同会議から学校(教職員・生徒・保護者会)地域の連携した状況を伺い、機会をみて鎌倉地元のひとりとしてまとめることを約束していた。ただ、学校と地域によって手作りで行われることから影響ない中立的機関が望ましく、広くまとめられる機会を探して本報告となった。

1. 2. 特色ある教育活動の研究目的

現在、文部科学省(2019)は、時代の変化に伴う学校と地域の在り方から必要性を示している。国内において、戦前より地域の中核になってきた学校だが、消えつつある。一方で、新設校の場合、新しい地域との関係性を形成していくには、生徒の安全性はじめ、様々な課題が生じ難しい現状にある。そのなかでも、手広中学校から小学校・幼稚園・地域と共に広がった「柞の森音楽祭」は、数少ない定着した教育活動と言える。そこで、本論では、「柞の森音楽祭」の軌跡について、概略をまとめることを目的とする。研究方法としては、2008～2014年に手広中学校の校長であった齊藤美代子・豊永良一より頂いていた資料と、2008～2019年の開催時に頂いたパンフレットなどの記録から、教育活動の軌跡を報告する。

2. 学校と地域の現状

2000年以降、文部科学省をはじめ国は、教育の再生を掲げると共に、過疎化する地域の課題に、様々な方法を探りはじめた。その方向性として「地域の教育力の充実と地域における学校との協働」による学校から地域との教育活動であった。現在、多くの学校にて、新しい教育活動は、地域と共に様々に行われている。だが、担当した教諭の離任または退任した後は、数年で姿を消してしまう事例も多い。戦前からある学校であっても住民・生徒の減少により、地域の行事に関わっていた特別活動も消えつつある。若者の卒業校・地域に対する親しみが薄れている一方で、つながりを探す意識は何かのカギになると考える。

3. 鎌倉市の手広・西鎌倉・鎌倉市立手広中学校について

台地が手を広げた形からの由来する鎌倉市立手広中学校は、大船と腰越の中間にある腰越と深沢エリア、西鎌倉と呼ばれる新しく造成された住宅が多い地区に、1983年に開校した新しい公立の中学校である。近くには、鎌倉市立西鎌倉小学校をはじめ、東レ研究所、神奈川県立深沢高等学校がある静かな森林が残る丘陵エリアである。近年は、通常学級3クラスと特別支援学級1クラスから約270人の生徒が在籍している。また、「アイリス級(弱視・難聴)特別支援学級」の開設はじめ、鎌倉市教育委員会「教育課題指定研究校」、文部科学省「学校教材整備の仕組みの構築推進校」として、教育研究も盛んに行われている。

4. 柞(ははそ)の森 音楽祭の軌跡

4. 1. 手広中学校からはじまった学校と地域の教育活動

はじまりは、2003年の「第1回 手広中学校吹奏楽部定期公演会」だと言う。文部科学省(2002)「豊かな子どもの生育」の提言がされていた当時、手広中学校では、手塚雄一郎(校長)を中心に、鎌倉市教育委員会指定の「特色ある教育活動<地域との協働での人づくり>」から学校地域づくりの教育活動として、部活の吹奏楽部(顧問：筑田恵子(教諭))を中心に地域演奏会が行われ広がっていた。教頭の急逝により着任した齊藤美代子(教頭)は、その活動から「学校と地域との教育活動」の重要性を感じたそうである。ただ、担当していた筑田恵子(教諭)の転任により、存続の危機となる。2006年に着任した齊藤美代子(校長)は、存続の方法を探して地域合同会議に提案を行い、中学校吹奏楽部の演奏会を拡大した形で、2007年に「柞の森音楽祭実行委員会」を発足させ、学校(教職員・生徒・保護者会)と地域の住民での活動を始めたそうである。2008年に始まった学校地域教育活動「柞の森音楽祭」の特色として、実行委員会と支援方式がある。「地域で子どもたちの成長を皆さんで見守る」スタッフ・ボランティアと、会員を「一口・個人500円、法人1000円」で賛助を求める支援である。2018年は、個人161名、法人6団体、賛助14名が登録を行っている。運営スタッフは「代表顧問・齊藤美代子、顧問・各校長・園長ほか、実行委員長・堀部隆二、舞台スタッフ、吹奏楽部顧問：大野美智代(教諭)ほか」により行われ、ダンス、新体操などのクラブも参加、地域協力団体(西鎌倉連合会・手広町内会・南鎌倉自治会・新鎌倉山自治会・西鎌倉自治会・西鎌倉住宅地自治会・西ヶ谷自治会・鎌倉山自治会・御所が丘自治会・谷際自治会・手広片岡町内会・津町内会ほか)、鎌倉市教育委員会ほか後援で開催されている。

4. 2. 「柞(ははそ)の森 音楽祭」のいわれについて

音楽祭の名称、「柞」のいわれについて、手広中学校の校長であった齊藤美代子(2011)によると「ケヤケ、ナラ、クヌギなどの総称である落葉広葉樹の”柞(ははそ)”は、命を育む森をあらわしているんです。自然と人、そして地域との共生の思いを大切して、教育活動を通じて集う生徒の感受性が地域の人々と共に音楽の演奏を通して、育っていくことを願い、柞の森音楽祭の名称に」したそうである。かつて、手広には多くの木々があったとされ、現在でも面影は残り、また、「ははそのもり」として、秩父市にある秩父神社の森が、古くから柞乃杜と呼ばれていることから、「柞の森 音楽祭」としたそうである。

4. 3. 「柞(ははそ)の森 音楽祭」の活動内容と軌跡

2007年12月、地域協働型の「柞の森音楽祭実行委員会」を発足させ、それまで行っていた地域演奏会の「吹奏楽部 定期公演」を取り入れた形で、2008年3月23日「第1回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館)」を開催して活動が始まる。第1～3回まで主催は、鎌倉市立手広中学校と柞の森音楽祭実行委員会だが、当初から、鎌倉市立手広中学校だけでなく、鎌倉市立西鎌倉小学校と西鎌倉幼稚園と片岡幼稚園も演奏に参加しており、東日本大震災(2011)により中止となった第4回以降は、正式に共催する形となる。歴代のスタッフと共に、参加も広がって行き、現在の姿となっている。また、音楽を共通の言語とした意味からも、第2回からはテーマを掲げている。当初は、中学校の吹奏楽部と地域から参加した(吹奏楽と合唱団)演奏会がメインであったが、第5回以降は、順番が前後するもののプログラムは変わっていない、主に4つで構成されている。2018年3月25日「第11回 柞の森音楽祭(手広中学校)」のプログラムでは、第Ⅰ部、幼稚園生・小学生・中学校と卒業生・地域参加の「合唱・柞の森合唱団」、第Ⅱ部「鎌倉市立手広中学校吹奏楽部の定期演奏会(第15回)」、第Ⅲ部、フラ、新体操、ダンスと演奏と合唱のコラボした「ダンスステージ」、第Ⅳ部、中学校の吹奏楽部と地域参加による大編成「柞の森吹奏楽団」となっている。委員会は毎年、地域の人々に参加を募集して、合唱は月2回程度の練習、吹奏楽は5回程度の練習を行っている。学校と地域の音楽祭として行っていることから、内容の広さに様々な意見もあるが、おもしろい取り組みと言える。主催は、柞の森音楽祭実行委員会、共催に、手広中学校、西鎌倉小学校、西鎌倉幼稚園、片岡幼稚園として、学校と地域での支援方式が続いている。

1983年4月1日、鎌倉市立手広中学校の開校。〈2002年に小学校連携と部活からの学校地域と人づくり教育活動〉。
 2001年4月、鎌倉市教育委員会指定「特色ある教育活動」学校地域の取り組みはじまる(手塚雄一郎(校長))。
 2003年9～11月、創立20周年記念行事、第1回手広中学校吹奏楽部定期公演会はじまる(顧問:筑田(教諭)ほか)。
 2004年3月、『手広中学校創立20周年記念誌』発行、2003年から毎年、吹奏楽部・地域演奏会を開催する。
 , 第2回 手広中学校吹奏楽部 定期公演会 (学校の地域演奏会<合唱団と吹奏楽の演奏会>)
 2006年4月、鎌倉市教育委員会教育課題指定研究校。地域演奏会の存続の危機に提案(齊藤美代子(校長))。
 2007年7～12月、手広中学校で地域に「柞の森音楽祭実行委員会」の発足、学校と地域との教育活動はじまる。
 2008年3月23日、第1回 柞の森音楽祭(第6回 手広中学校吹奏楽部 定期公演会) (鎌倉芸術会館大ホール)。
 主催 鎌倉市立手広中学校; 柞の森音楽祭実行委員会(第1～3回), 第1回から中学・小学校・幼稚園の参加。
 2009年3月22日、第2回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館大ホール), テマ「春」。
 2010年3月21日、第3回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館大ホール), テマ「絆」。
 演奏会が加わる形式に>。
 2011年3月19日、第4回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館大ホール), テマ「旅立ち」東日本大震災により中止。
 主催 柞の森音楽祭実行委員会, 共催 鎌倉市立手広中学校; 鎌倉市立西鎌倉小学校; 西鎌倉幼稚園; 片岡幼稚園,
 2012年3月18日、第5回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館大ホール), テマ「希望」。(第4回～現在)。
 2013年3月10日、第6回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館大ホール) テマ「翔」, 『手広中学校創立30周年記念』。
 2014年3月16日、第7回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館大ホール) テマ「輪」。
 2015年3月22日、第8回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館大ホール) テマ「夢に向かって」。
 2016年3月26日、第9回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館小ホール) テマ「ハーモニー」。
 2017年3月26日、第10回 柞の森音楽祭(鎌倉市立西鎌倉小学校体育館) テマ「ふるさと」。
 2018年3月25日、第11回 柞の森音楽祭(鎌倉市立手広中学校) テマ「つながろう! あいさつとびかう町」。
 2019年3月17日、第12回 柞の森音楽祭(鎌倉芸術会館小ホール) テマ「未来へ」。
 2020年3月15日、第13回 柞の森音楽祭(鎌倉市立西鎌倉小学校) パンデミック感染拡大「緊急事態宣言」により開催中止。
 <柞の森音楽祭(2008～), 鎌倉市立手広中学校(1983～), 手広中学校吹奏楽部定期演奏会(2003～)教育活動の主な軌跡>

第Ⅰ部 合唱・柞の森合唱団(幼稚園生・小学生・中学校卒業生・地域参加) 13:00.
 開演前の演奏 鎌倉手広囃子保存会(西鎌倉小学校と手広中学校の生徒)。
 第Ⅱ部 鎌倉市立手広中学校吹奏楽部, 第15回 定期演奏会 14:15.
 第Ⅲ部 ダンス ステージ(フラ, 新体操, ダンスと演奏合唱のコラボ) 15:00.
 第Ⅳ部 大編成吹奏楽・柞の森吹奏楽団(中学校吹奏楽部と地域参加) 16:00.
 主催 柞の森音楽祭実行委員会。2018年3月25日(日曜日)手広中学校体育館会場。
 共催 鎌倉市立手広中学校; 鎌倉市立西鎌倉小学校; 西鎌倉幼稚園; 片岡幼稚園。
 後援 鎌倉市教育委員会; 手広商工振興会; 西鎌倉商店会。
 <2018年のプログラム「第11回 柞の森音楽祭(鎌倉市立手広中学校)」より>。



『第1回柞の森音楽祭(2008)』

<パンフレットB5版>。

5. むすびに

人々の関係性が希薄化する現在、生まれ育った地域における学校の存在は、数少ない共通する役割を持っている。全校で強制的に行うのではなく、自主的に参加する学校と地域による「柞の森音楽祭」の試みは、会場で生徒・卒業生と住民が話す姿からも、ひとつの未知標を示している。本来、学校の教育活動には、仲間づくりがある。2018年のパンフレットには、「少子高齢化・働き方改革・格差社会等、社会の変動にあわせて、この音楽祭にもとめられる意味も深まっている～この音楽祭を通じて、地域のつながりを深めるまちづくりに貢献できればと強く願っています」とある。現在、進学先に通信課程を選ぶ例もあり、同じ世代で多様性を形成するアニメのような学校生活を知らない若者も多い。それだけに、地域にある学校の役割は、大きくなってきている。最後に、早くまとめるなくてはと思いつつも、2011年から時間が経過してしまったことに申し訳なく感じている。本論では、現在も続いている学校地域教育活動の関係から概略その軌跡に留めた。本来であれば、音楽祭ができあがるまでの詳細な状況も必要かも知れない。だが、継続している活動であり、地域での個人情報保護からも詳細については記載しなかった理由がある。

今後とも、「特色ある教育活動」について伺い、変化した折にその後について報告できたらと願っている。

謝辞・「柞の森 音楽祭」の始まった2008～2014年にかけて、地域と連携しようとする教育活動の状況をお知らせ頂いた鎌倉市立手広中学校・齊藤美代子・豊永良一はじめ、2008～2019年の開催時には伺わせて頂き、関係みなさまに、ようやく報告できたこと感謝を申し上げます。(敬称省略)

参考文献

鎌倉市教育研究所(1984). 私たちの鎌倉. pp1-201.

鎌倉市立手広中学校・柞の森音楽祭実行委員会(2008～10). 第1～3回 柞の森音楽祭 (配布資料).

鎌倉市立手広中学校(2011～19). 手広中学校.

URL : <http://www.kamakura.ed.jp/~tebityuu>(2019/04/01).

秩父市(2020). 柞の森・市指定天然記念物.

URL : <http://www.city.chichibu.lg.jp/4454>(2020/01/01).

中央教育審議会(2015). 新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申).

橋本典尚(2008). 児童の教育活動からみる「ネサヨ運動」と「ネハイ運動」の実態. 国立青少年教育振興機構研究紀要, 8, pp177-185.

URI : <http://www.niye.go.jp/kanri/upload/editor/8/File/kiyo0815>(2008/04/14).

橋本典尚(2012). 福岡県内の小学校における言語教育活動. 福岡大学言語教育研究センター紀要, 11, pp1-14.

橋本典尚(2013). 学校の教育活動資料と文書資料. 名古屋大学大学文書資料室紀要, 21, 2013, pp91-130.

URI : <http://hdl.handle.net/2237/18180>(2013/07/29).

柞の森音楽祭実行委員会・鎌倉市立手広中学校ほか(2011). 第4回 柞の森音楽祭(開催中止・未配布資料).

柞の森音楽祭実行委員会・手広中学校ほか(2012～2019). 第5～12回 柞の森音楽祭 (配布資料).

柞の森音楽祭(2012～18). 柞の森音楽祭ニュース. No1～46.

URL : <http://hahasonomori.sblo.jp/>(2018/03/01).

文部科学省 (2006). 生涯学習社会の実現. 文部科学時報, 1562, pp14-19.

文部科学省 (2006). 初等中等教育の充実. 文部科学時報, 1562, pp20-30.

文部科学省 (2019). 地域とともにある学校(仮)づくり(仮題) (素案).

キーワード

学校地域教育活動、特色ある教育活動 (学校地域づくり)、鎌倉市立手広中学校、吹奏楽部、柞の森音楽祭

2020年2月 現在.

2021年1月 確認.

【「地域志向学研究」編集委員会注】

本実践報告は『地域志向学研究 第4巻』(2020年3月刊行)へ投稿されたが、編集上の都合により今号(第5巻)への掲載となった。